

まちの出来事



遠紋一丸の交流会が盛り上がる DOいななか博が交流会で閉幕 次につながるよう誓い新たに

昨年5月1日から遠紋12市町村で進められてきたオホーツクDOいななか博は3月21日、終了となり紋別市民会館で閉会式と交流会が行われました。遠紋12市町村の首長や観光協会長など関係者らが出席し、最後に一本締めを行い全ての日程を終えました。12市町村で繰り広げられたイベントは108に及び100



▲交流会会場には遠紋特産の食材が並べられた

万人を超える集客を果たしました。交流会では遠紋の首長や各市町村の実行委員会のメンバーをはじめ圏域の住民ら300人が同博の成功を祝い合いました。

交流会では遠紋12市町村特産の食材がズラリと並べられ、各市町村の首長はハツピをまとい、職員は黄色のスタッフジャンパーを着て来場者をもてなすなど、遠紋圏域の一体性をアピールしました。副会長の堀次郎佐呂間町長が「DOいななか博を通じて築いた連携を今後にも生かしていこう」と挨拶して乾杯しました。

会場には風間深志地球元氣村代表やいななか博ポスターを製作した写真家の清水清太郎さんも顔をみせたほか、俳優の長谷川初範さん、歌手の加藤登紀子さんも駆けつけまし

た。最後は西紋地区合唱連盟のメンバーがステージに上がってDOいななか博テーマソング「オホーツクの詩」を大合唱。ゲストの長谷川さんや加藤さんも加わって歌い合い、交流会は最高潮となりました。



▲ゲストの長谷川初範さんや加藤登紀子さんもステージに飛び入り参加して「オホーツクの詩」を大合唱した



▲関係者が一本締め、新たなスタートを誓った

人権擁護委員・柳沼さんに

4期目の委嘱状

紋別市の人権擁護委員に潮見4・柳沼啓子さんが再任され、その委嘱状の交付式が4月1日、市役所で行われました。赤井邦男市長が、法務大臣からの委嘱状を柳沼さんに手渡し、活躍に期待を寄せました。柳沼さんは「さらに勉強して、一生懸命務めます」と抱負を話していました。

人権擁護委員は、人権問題に関する住民からの相談を受け付けたり、人権思想の普及のための活動を行う人で、市内には柳沼さん



▲赤井市長から柳沼さんに委嘱状が手渡されました

243人が新1年生に

交通安全グッズ贈呈も

春は別れと出会いの季節。市内の小中学校でも卒業式と入学式が3月後半から4月上旬にかけて行われました。

4月に小学校に入学したのは243人。6日、南丘小学校の入学式で磯部邦雄校長は「皆さんは胸をドキドキわく

わくさせて入学を持っていくと思います。学校の先生たちも楽しみにしていました。2年生から6年生までのお兄さん、お姉さんも優しくしてくれましょ」などと新1年生45人に歓迎の言葉をかけていました。



交通安全グッズの贈呈式も行われました



入籍する新一年生たち(前江小)

なお同小の入学式では、同日から始まる春の全国交通安全運動に合わせ、紋別地区交通安全協会など3団体が、新1年生にランドセルカバーなど黄色い交通安全グッズをプレゼントしました。

3月末に小学校を卒業したのは256人。卒業式では進学する中学校の制服姿がまぶしく、保護者の方々にはひとまわり大きな姿に見えたことでしょう。

道都大学27年の歴史に幕

卒業生は6千人以上に

紋別に若い活力を与えてくれた道都大学紋別キャンパスが、3月末で北広島に移転し、大学誕生から27年間の紋別での歴史を閉じました。

道都大学は昭和53年に紋別で開学。当初は社会福祉学部と美術学部の2学科制でしたが、学生確保の難しさなどを理由に平成8年に美術学部が撤退。北広島キャンパスが本校になっていました。紋別キャンパスのこれまでの卒業生は6千人を超えました。

3月13日に行われた最後の卒業式では、社会福祉学部の97人が卒業。青春の4年間を過ごした紋別から、社会にはばたいて行きました。

来賓としてあいさつした赤井邦男市長は「第1期生は現在45歳で社会の中核を担っています。卒業生は社会の財産で、紋別にとっても貴重な宝。櫻井総長、学長をはじめ大学スタッフの皆様には厚く感謝し、道都大学のますますの発展を願います」と述べました。卒業式を終えた櫻井淳総長

は「27年間通った紋別での最後の卒業式が終わり感無量です。200海里問題、名寄線廃止、少子化が重なり、紋別では将来に無理があると判断し、涙を飲んで紋別を去ることになりました」と大学設置時の苦労も振り返りながら、しみじみ語っていました。



道都大学紋別キャンパスの最後の卒業式

新しいひまわり弁護士に大窪さん

亀井弁護士が任期終え退任

紋別ひまわり基金法律事務所(本町4)の2代目所長として活躍してきた亀井真紀弁護士が3月末で退任し、4月から3代目所長として大窪和久弁護士が就任しました。

2人は、4月8日に紋別経済センターで交代の記者会見を行いました。

2年の任期を終えた亀井弁護士は「紋別では全力投球で仕事ができ、忙しかったですが大変充実していました」と振り返りました。また大窪弁護士は「市民の皆さんの身近な弁護士として頑張ります」と決意を話しました。

紋別ひまわり基金法律事務所は、弁護士過疎の地域の悩みに応えようと日本弁護士連合会が中心となって運営するもので、平成13年4月に開設されました。紋別市には、これまで弁護士がいなかっただけに、開設と同時に市民からのさまざまな相談が寄せられ続けています。

亀井弁護士は出身地の東京に戻って、弁護士活動を続け

ます。新しい大窪所長は千葉県出身、20歳のフレッシュな弁護士。独身です。記者会見の後に行った2人の歓迎会には、全国各地から弁護士の皆さんが、多数お祝いに駆けつけ、大窪弁護士に「紋別でお嫁さんも見つけるように」と激励していました。



新日の所長がっちり藤平 亀井弁護士(右)と大窪弁護士

